

令和元年度 決算状況

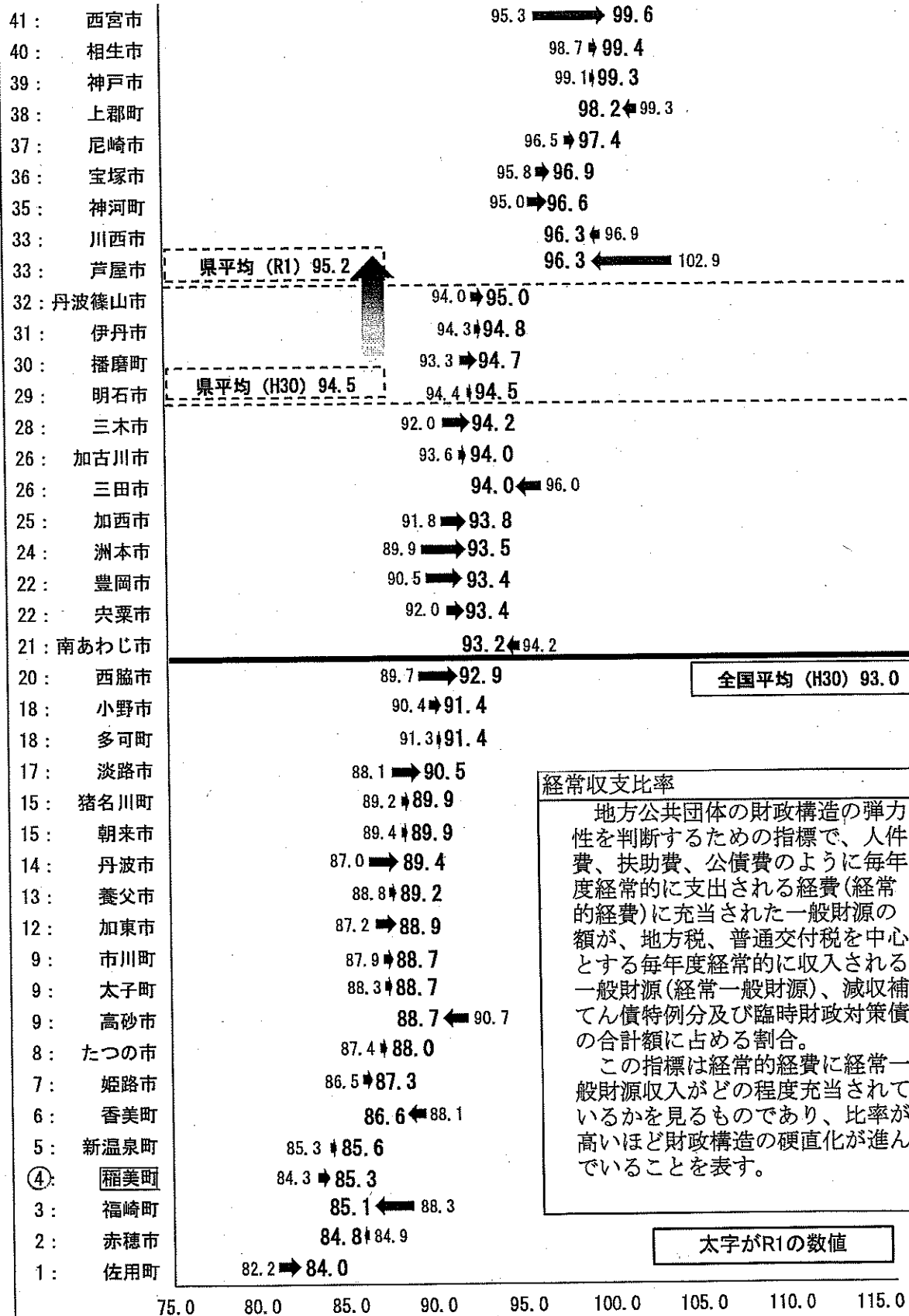
一般会計

区	分	令和元年度	平成30年度	増減	増減率 %	区	分	令和元年度	平成30年度	増減	増減率 %
1	歳入総額(A)	11,935,584	10,915,432	1,020,152	9.3	11	基準財政需要額	5,275,560	5,139,826	135,734	2.6
2	歳出総額(B)	11,280,987	10,239,262	1,041,725	10.2	12	基準財政収入額	4,064,235	3,923,580	140,655	3.6
3	差引(C) (A)-(B)	654,597	676,170	△ 21,573	△ 3.2	13	基準財政規模	6,791,249	6,729,359	61,890	0.9
4	翌年度へ繰り越すべき財源(D)	64,020	13,260	50,760	382.8	14	財政力指数 (3ヶ年平均)	0.76	0.76	0.00	0.0
5	実質収支(E) (C)-(D)	590,577	662,910	△ 72,333	△ 10.9	15	実質収支比率	8.7%	9.9%	△ 1.2	△ 12.1
6	単年度収支(F)	△ 72,333	△ 11,134	△ 61,199	549.7	16	經常収支比率	85.3%	84.3%	1.0	1.2
7	積立金(G)	264,904	421,103	△ 156,199	△ 37.1	17	財政調整基金現在高	4,219,297	3,954,393	264,904	6.7
8	繰上償還金(H)	0	0	0	0.0	18	減債基金現在高	546,856	551,338	△ 4,482	△ 0.8
9	積立金取崩し額(I)	0	0	0	0.0	19	その他特定目的基金 残高	1,414,449	1,430,841	△ 16,392	△ 1.1
10	実質単年度収支(J) (F)+(G)+(H)-(I)	192,571	409,969	△ 217,398	△ 53.0	20	地方債現在高	9,839,418	9,338,271	501,147	5.4

(単位：千円)

### 経常収支比率の対前年度比較

- 前年度から比率が増加したのは32団体、比率が減少したのは9団体。
- 最も減少したのは、市では芦屋市(▲6.6)、町では福崎町(▲3.2)。
- 最も増加したのは、市では西宮市(+4.3)、町では神河町(+1.6)。



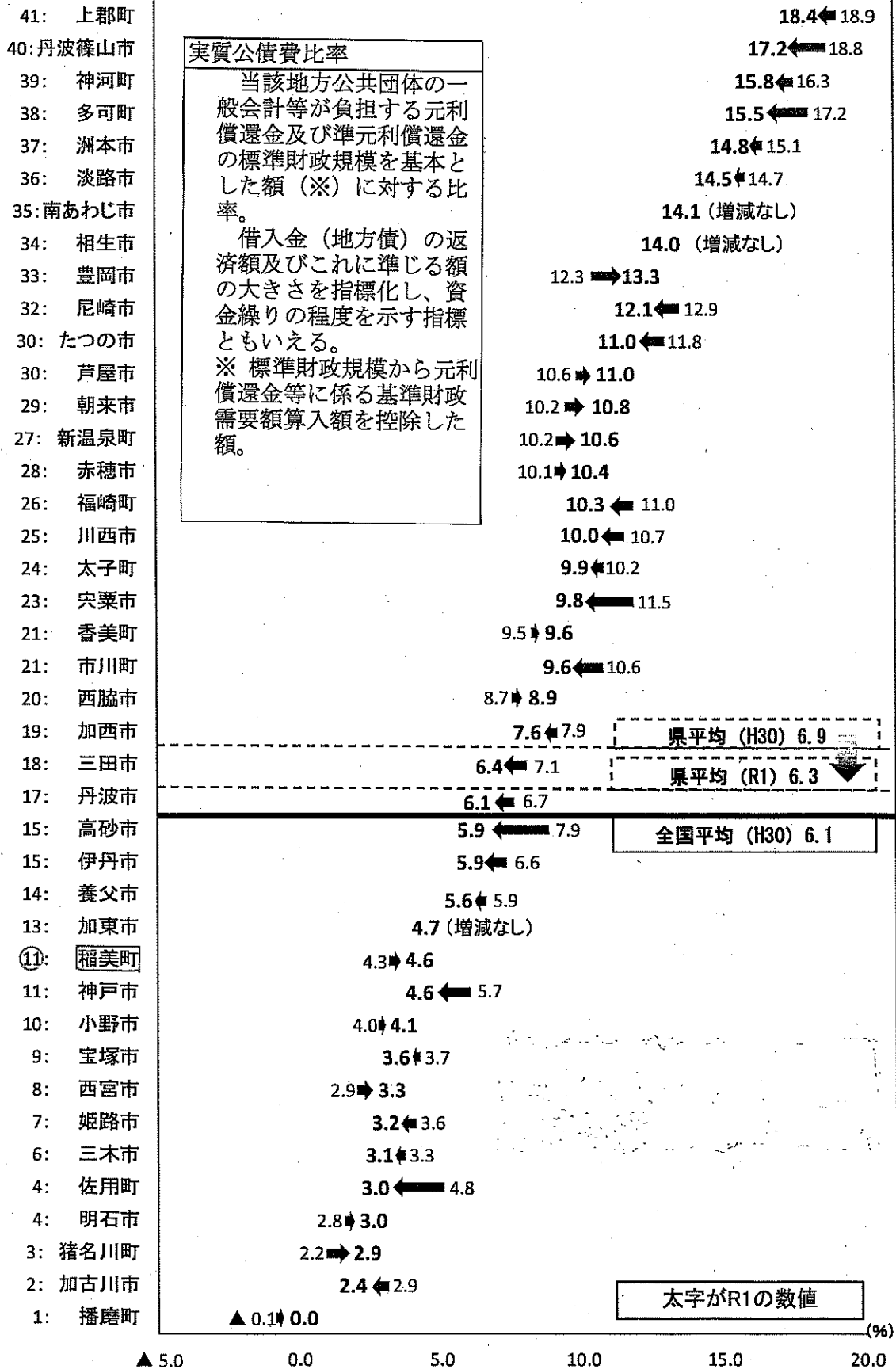
**経常収支比率**

地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標で、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費(経常的経費)に充当された一般財源の額が、地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源(経常一般財源)、減収補てん債特例分及び臨時財政対策債の合計額に占める割合。

この指標は経常的経費に経常一般財源収入がどの程度充当されているかを見るものであり、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表す。

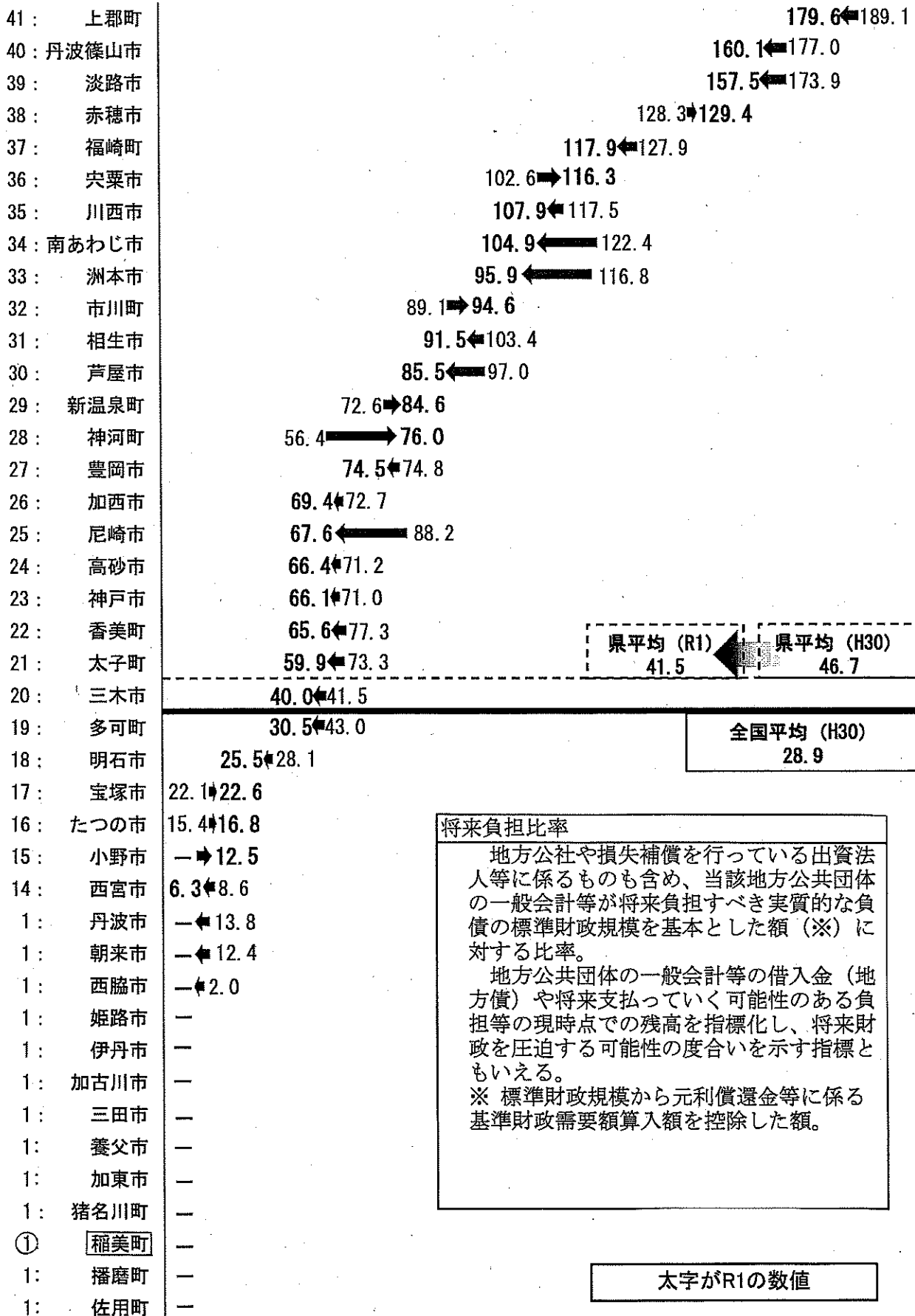
実質公債費比率の対前年度比較

- 前年度から比率が減少したのは25団体、比率が増加したのは13団体、3団体が増減なし。
- 最も減少したのは、市では高砂市(▲2.0)、町では佐用町(▲1.8)。
- 最も増加したのは、市では豊岡市(+1.0)、町では猪名川町(+0.7)。



将来負担比率の対前年度比較

- 前年度から比率が減少したのは23団体、比率が増加したのは8団体。
- 最も減少したのは、市では洲本市(▲20.9)、町では太子町(▲13.4)。
- 最も増加したのは、市では小野市(+45.4)、町では神河町(+19.6)。



0 30 60 90 120 150 180 210 (%)

平成31年ラスパイルス指数の対前年比較

■前年から指数が減少したのは28団体、増加したのは11団体  
 ■100を上回る団体は、3団体減少し、8団体  
 ■最も増加したのは宝塚市(+2.7)

